



患者とコミュニケーションを取りながら、足浴体験に臨む高校生

憧れの白衣で業務体験

「看護師にきつとなる」

将来の進路に看護職を希望する高校生を対象にした、製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の「ふれあい看護体験」が26日、室蘭市知利別町の同病院で行われ、西胆振3市7校の高校生13人が、足浴や洗髪などを通じた患者との触れ合いや車いす移動などの体験を通じて、看護の心と命の尊さを学んだ。

「看護の日」(5月12日)にちなみ毎年、夏休み期間中に行っている。参加高校生らは一日看護師の委嘱状を受け取り、各病棟に「配属」された。

製鉄記念室蘭病院で
西胆振の高校生13人

4病棟(内科・循環器内科)では、3人が入院患者の協力を得て、足浴や洗髪などの清潔ケア体験に臨んだ。憧れの白衣に身を包んだ高校生は、看護師のアドバイスを受けながら、緊張した面持ちで患者とコミュニケーションを取るなど看護業務に理解を深めていた。

足浴体験を終えた児玉真佳さん(伊達高2年)は、「看護師さんは細かい気遣いが必要なことが分かった。体験を通じて看護師になりたい決意が一層強くなりました」と目を輝かせていた。(松岡秀宣)